

看護管理 第7巻 総目次

1997年(1-12号)

(表示は、筆者名(所属)：題名、号数、ページ。なお、所属は発表当時のもの。)

【特集】

看護のエンパワーメント(1号)

Patricia Underwood(兵庫県立看護大学)：パワーとエンパワーメント，1，7-13.

Patricia Underwood(兵庫県立看護大学)：パワーを獲得する，1，14-20.

Patricia Underwood(兵庫県立看護大学)：パワーを使う，1，21-27.

南裕子(兵庫県立看護大学)：日本における看護のエンパワーメント，1，28-32.

近田敬子(兵庫県立看護大学)：エンパワーメントを育てる教育—継続教育の関わりから，1，34-37.

安藤幸子(神戸市看護大学)：臨床におけるエンパワーメント，1，38-41.

新道幸恵(神戸大学)：看護部のエンパワーメントと変革，1，42-46.

鶴田恵子(横浜市衛生局)：新しい行政ポストにおけるエンパワーメントプロセス，1，47-50.

小橋美栄子(民間在宅看護協会)：独立して見えてくるもの，1，51-54.

発展する固定チームナースィング(継続受持ち方式)(2号)

西元勝子(滋賀医科大学)・杉野元子(看護組織開発研究所)：小集団活動のメリットを生かして—固定チームナースィング(継続受持ち方式)の基本，2，86-91.

大井潤子(公立大栗郡民病院)：患者のグループ分けと継続受持ちの実際，2，92-97.

小林達子(鳥取市立病院)：看護チームの編成と小集団活動，2，98-102.

安喰由美(第二出雲市民病院)他：チームづくりが引き出した看護婦の主体性と積極性，2，103-107.

森尾紀子(鳥取市立病院)他：人工透析室とICUの連携による取り組み，2，108-112.

石田幸子(佐世保市立総合病院)他：外来における取り組みと成果，2，113-116.

谷口智子(大津市民病院)他：ICUにおける小チーム制継続受持ちの実際，2，117-120.

あなたの病院の感染管理はこれでよいのか？(3号)

奥村勝美(ダスキンヘルスケア)：感染管理における問題点とその対策—環境の汚染状況と対策の方法，3，160-167.

鈴木達夫(北里研究所)：北里院内感染対策協議会の

院内環境管理システムの経験から，3，168-175.

柴田清(聖路加国際病院)：専任の感染管理者の立場から，3，176-180.

古川恵一(聖路加国際病院)：感染症科の役割と院内感染管理，3，181-185.

医療の質に関する研究会(質研)編：質研の院内感染管理の項目と基準，3，186-192.

二交替制導入を前に(4号)

原ハツエ(横浜南共済病院)：勤務体制と体験的看護管理—12時間夜勤型二交替勤務体制を中心に，4，244-256.

金井 Pak 雅子(国際医療福祉大学)：勤務体制および交替制勤務の基本的概念，4，257-263.

込田晶代(安西法律事務所)：労働時間法制からみた留意点，4，264-269.

廣瀬俊雄(仙台錦町診療所・産業医学健診センター)：深夜労働が心身に及ぼす影響と管理者に求めたいこと，4，270-279.

専門看護婦の導入は病院を変える—横浜市民病院の現状(5号)

國井治子：専門看護婦導入の経緯と活用の実際，5，320-325.

野末聖香：リエゾン精神専門看護婦の活動の実際，5，326-333.

小迫富美恵：オンコロジーナースの活動—4か月の導入試行から，5，334-340.

寺林裕子：病棟婦長からみた専門看護婦活用の有効性と今後の課題，5，341-344.

西川美智子：病棟婦長と専門看護婦，5，345-348.

山口聡子他：スタッフからみた専門看護婦，5，349-352.

満岡義敬：医師からみた専門看護婦，5，353-359.

ケアの質の保証とクリティカル・パス(6号)

竹谷美穂(厚生中央病院)：クリティカル・パスとは—アメリカの一病院の実態から，6，398-405.

山崎絆(東京都済生会中央病院)：急性疾患のクリティカル・パス，6，406-412.

嶋森好子(東京都済生会向島病院)：慢性疾患のクリティカル・パス—糖尿病教育入院患者の例，6，413-421.

阿部弘由己(永生病院)：介護力強化病棟におけるクリティカル・パス，6，422-427.

中野夕香里(日本医療機能評価機構):クリティカル・パスを考える, 6, 428-432.

魅力的な婦長(7号)

森山弘子(東京大学医学部附属病院)・高嶋妙子(聖隷浜松病院):〈対談〉私の期待する婦長像―「いちばん面白い仕事」婦長に寄せて, 7, 480-487.

東清巳(前熊本地域医療センター):看護と自分史―この10年を振り返って, 7, 488-492.

楠川富子(高松赤十字病院):マネージャーになりたーい看護においても, 人間関係でも, 7, 493-496.
安部陽子(兵庫県立こども病院):人との関わりの真ん中で, 7, 497-500.

村木ゆかり(聖隷浜松病院):婦長としての自分をさがして, 7, 501-504.

原明子(飯田市立病院):婦長5年生の私がめざすもの, 7, 505-508.

柳澤愛子(東京大学医学部附属病院):看護が好きなら道は拓かれる, 7, 509-512.

加納佳代子(社会保険船橋中央病院):今, 「婦長」を楽しむ, 7, 513-517.

江口隆子(札幌麻生脳神経外科病院):信頼できるチームとともに感動しがし, 7, 518-522.

渡辺睦子(東札幌病院訪問看護ステーション東札幌):看護という仕事, 役割を通して自己実現を図る, 7, 523-526.

婦長研修担当者が期待する婦長像(8号)

由井尚美(全国社会保険協会連合会):第一線の指揮監督者に寄せる期待, 8, 572-575.

小森和子(日本赤十字社):求められる問題意識と主体性, 8, 576-579.

板倉智子(日本看護協会):実践の意義とともに学ぼう―研修生との「共育」から, 8, 580-583.

野元久美子(鹿児島医療生活協同組合):「健康な地域社会をつくる看護」を担う人として, 8, 584-588.

落合美美子(恩賜財団済生会):より大きな成果を生む能力開発を―研修プランナーの立場から, 8, 589-592.

大森綏子(労働福祉事業団)他:研修での学びを実践する力を, 8, 593-596.

田代佐代子(神奈川県立看護教育大学校):看護管理者教育を通して学んでほしい婦長の能力, 8, 597-600.

内田卿子(日本病院会):生涯を通じた自己研鑽を, 8, 601-603.

看護におけるケースマネジメントクライアント主体のケア提供システムを考える(第29回聖路加看護大学公開講座より)(9号)

Toni Harrington(聖路加看護大学):ケースマネジメントの概観と発展, リハビリテーション病棟での

実施, 9, 642-648.

Gerri S. Lamb(キャロンドレット・ヘルス・ネットワーク):米国のヘルスケアにおける看護ケースマネジメント, 9, 649-655.

Gerri S. Lamb(キャロンドレット・ヘルス・ネットワーク):米国アリゾナ州における看護ケースマネジメントの実態, 9, 656-661.

山田雅子(セコム在宅医療システム)・秋山正子(白十字老人訪問看護ステーション)・青山幹子(板橋区役所衛生部):〈パネルディスカッション〉日本におけるケースマネジメントの実践とそのあり方, 9, 662-667.

[関連論文]

叶谷由佳(東京大学大学院)他:医療費抑制策下でのケアの質の維持向上に対する看護の貢献―米国文献レビュー, 9, 668-675.

それぞれのプライマリ・ナースィング管理者の役割とスタッフの実践(10号)

米山万里枝・山崎慶子(東京女子医科大学病院):チームナースィングからプライマリ・ナースィングへの道のり―看護婦の自律と専門性の向上をめざして, 10, 720-722.

川野良子・米山万里枝(東京女子医科大学病院):事例にみる管理者とスタッフの新しい役割獲得, 10, 723-728.

秋山智弥(東京大学大学院):東大病院整形外科におけるプライマリ・ナースィングへの取り組み―ベス・イスラエル病院との交流を通して, 10, 729-735.

秋山智弥(東京大学大学院):プライマリ・ナースィングの展開―継続を支えるコミュニケーション, 10, 736-744.

管理実践に役立つ研究(11号)

上田規子(神奈川県立足柄上病院):看護管理研究は臨床看護の「現実」からスタート, 11, 800-803.

笠原万吏江(川崎看護専門学校):研究事例―再就職看護婦の支援に関する分析―離職看護婦の活用への可能性について, 11, 804-810.

鶴田恵子(横浜市衛生局):研究指導を担当して―指導のプロセスと指導者の役割, 11, 810-811.

佐藤貴美子(横浜市立大学医学部附属病院):看護大学の研修員としての学び―研究のプロセスを通して科学的看護管理を, 11, 812-816.

岡部純子(神奈川県立こども医療センター):看護業務改善を支援するために―総看護婦長が婦長の研究をサポートするとき, 11, 817-823.

岸学(東京学芸大学):研究指導の教育的配慮―こんなコメントはスタッフのやる気をなくさせる, 11, 824-827.

【ディベート】

川島みどり(健和会臨床看護学研究所)他：看護における質の評価—看護の質は評価できる？できない？(第1回日本看護管理学会より), 12, 878-889.

【特別論文】

上原ます子(大阪大学)他：「高齢患者退院指導・継続看護のマニュアル」を用いた看護の継続性の検討(その1), 1, 56-63.

中村裕美子(大阪府立公衆衛生専門学校)他：「高齢患者退院指導・継続看護のマニュアル」を用いた看護の継続性の検討(その2), 2, 129-135.

佐藤貴美子(横浜市衛生局)他：行政に看護職を配置した効果分析, 3, 204-212.

祖父江育子(京都大学医療技術短期大学部)：院内研究の評価方法, 4, 282-291.

秋山智弥(東京大学大学院)：My Patient, My Nurse—プライマリ・ナーシングを支えているもの, 8, 567-570.

筒井孝子(国立公衆衛生院)：看護量の測定および推定のための方法論に関する研究—看護業務分類コードの作成について, 12, 890-900.

【特別記事】

太田勝正・小西恵美子(長野県看護大学)：看護管理者の誇りと正当な評価—ベス・イスラエル病院の例, 2, 122-127.

久常節子(厚生省健康政策局看護課)：(インタビュー)准看護婦問題調査検討会報告書について久常節子氏に聞く—国民の信頼感に應える看護職養成を, 3, 193-197.

【資料】

准看護婦問題調査検討会報告書, 3, 198-202.

養成所への入所要件と奨学金に関わる諸問題, 3, 203.

李秀華(北京・中日友好医院)他：看護の卒後継続教育における学分管理制の実施の現状, 5, 362-365.

野村陽子(厚生省保険局医療課)：平成9年診療報酬改定と今後の流れ, 6, 436-442.

大和田恭子(日本赤十字社医療センター)：ミニグさんとその仲間たち—ペルーにおける赤十字国際委員会の活動と「日本大使公邸人質事件」, 7, 536-542.

林千冬(群馬大学)：英国における有資格看護補助者養成と看護職, 12, 902-908.

寺澤捷年(富山医科薬科大学)：和漢診療の現在・未来, 12, 909-912.

【特別講演】

ジョイス・クリフォード(ベス・イスラエル・ディコネス・メディカルセンター)他：東京女子医科大学

病院看護部公開講座より—プライマリ・ナーシングの原点と婦長の役割, 8, 558-566.

【グラフ】

最期まで人間らしく—聖隷ホスピス新病棟完成, 7, 528-533.

【調査研究】

渋谷越子(神奈川県衛生看護専門学校付属病院)他：業務を整理, 改善する意義—中央材料室での取り組みから, 1, 66-69.

名古屋大学医学部附属病院看護部4A病棟：変方モジュール型継続受持ち方式の導入成果—看護活動調査・ナースコール回数調査・患者アンケートより, 3, 214-218.

近藤真紀(広島大学大学院)：患者サイドからの受持ち制ナーシングに対する評価, 3, 219-223.

澤田和美(東京医科歯科大学)他：患者の満足に影響を及ぼす要因, 4, 294-299.

吉野由美子(厚木看護専門学校)：実習指導者の実習指導観形成過程の検討—一病院における実習指導者への面接を通して, 6, 444-450.

水流聡子(広島大学)他：医療機関から在宅ケアに移行する際の看護サマリーの役割, 9, 678-683.

太田にわ(岡山大学医療技術短期大学部)他：子どもの入院に母親が付添うことによる家計費への影響, 12, 924-929.

【実践報告】

栗田朝子(佐久総合病院)：外国人労働者健康医療相談室を開設して—ボランティア活動から学んだこと, 5, 366-369.

小林広子(兵庫県立高齢者脳機能研究センター)他：離床センサーを用いた高齢痴呆患者の転倒予防の試み, 6, 452-456.

森藤弘子：患者体験を通して看護を思う, 8, 606-610.

【レポート】

横川正子(聖マリア学院短期大学)：病院見学からナイチンゲールの看護を考える, 12, 941.

【ニュースと資料】

21世紀に向けた介護関係人材育成の在り方について, 5, 374-381.

【資料と解説】

山口千鶴子(富山医科薬科大学附属病院)：患者の成熟した自己決定のために看護が今すべきこと, 10, 754-757.

富山医科薬科大学倫理委員会：終末期医療の基本方針, 10, 757-759.

富山医科薬科大学倫理委員会：終末期医療の基本方針に関する Q&A, 10, 759-762.

【そこが知りたい】

(匿名)：専門看護師・認定看護師制度に関して疑問に思うこと, 2, 136-140.

【Management に役立つ海外文献】

後藤優子(千葉大学)他：意思決定に活用できるデータベース, 6, 458-460.

【Book Review】

泉キヨ子(金沢大学)評：江本愛子監訳『アルファロ

看護場面のクリティカルシンキング』, 1, 65.

竹股喜代子(亀田総合病院)評：岩下清子他著『診療報酬—その仕組みと看護の評価』, 2, 141.

寄田春美(大津市民病院)評：『看護教育』編集室編『看護教育新カリキュラム展開ガイドブック』(全13冊), 4, 293.

井部俊子(聖路加国際病院)評：山崎慶子他編『ナースング・マネジメント・ブックス5—シフトワーク・マニュアル』, 5, 371.

笠沼勇一(東北大学)評：小島通代他著『看護ジレンマ対応マニュアル』, 6, 443.

尾崎フサ子(新潟大学医療技術短期大学部)評：『臨床看護研究の進歩』編集室編『臨床看護研究の進歩VOL. 8』, 7, 543.

永見瑠美子(益田赤十字病院)評：スーザン・ランビー著、岩井郁子監訳『フォーカスチャータリング—患者中心の看護記録』, 8, 611.

広瀬寛子(東京都精神医学総合研究所)評：奥川幸子著『未知との遭遇—癒しとしての面接』, 9, 685.

加藤光寶(新潟県立看護短期大学)評：加納佳代子著『それぞれの誇り—婦長は病棟の演出家』, 10, 763.

【かれんと】

小池直人(名古屋大学)

：先生と呼ばれるほどの……, 1, 1.

：あまりにも丁寧な, 2, 81.

：ランチタイムに思う, 3, 155.

竹内章郎(岐阜大学)

：助け合いとマーケット, 4, 239.

：市場化と弱者, 5, 315.

：ケアを「主役」に!, 6, 393.

中山一樹(鹿児島県立短期大学)

：あなたには責任はないんだよ, 7, 475.

：教室の中の他者になってみる, 8, 555.

：自立神話とラクちん志向, 9, 637.

出雲雅志(松山大学)

：キエフのおばあさん, 10, 715.

：「境界線」を生きる, 11, 795.

：人間くさい話, 12, 875.

【ひまわり】

守山伸子(鶴巻温泉病院)：患者満足から顧客満足へ, 4, 280-281.

鈴木小津江(前筑波メディカルセンター病院)：現場を離れて約1年の思い, 5, 360-361.

野村光子(国立指宿病院)：今頃の若い人は……というけれど, 6, 434-435.

渡邊雅子(静岡県・浜北市保健センター)：体験から学んだ「健康」に感謝, 7, 534-535.

田辺庚(諏訪中央病院)：看護職の自立を願って, 8, 604-605.

能勢好美(国民健康保険佐久間病院)：仕事と余暇の素敵な関係, 9, 676-677.

山本桂子(岡村記念病院)：時の流れに忘れられたこと, 10, 764-765.

村松靖子(藤枝市立総合病院)：さるすべりの樹に思うこと, 11, 828-829.

渡辺睦子(東札幌病院訪問看護ステーション東札幌)：ドリフターズになって心と体を軽くする, 12, 914-915.

【座談会シリーズ 看護実践における倫理性】

① [NICU 領域] 入江暁子(北里大学病院)・平山美子(聖隷浜松病院)・横尾京子(広島大学)：人との関わりを倫理的に考えるスタッフを育てる, 10, 746-753.

② [脳神経科領域] 川原千恵美(日本大学医学部附属板橋病院)・武森三枝子(倉敷平成病院)・森山ひとみ(三井記念病院)・紙屋克子(筑波大学)：意識障害患者に対する日常的な看護を見直す, 12, 916-923.

【看護管理者にかかせない 診療報酬の知識】

野村陽子(厚生省保険局医療課)：

① 看護料はなぜ人数評価なのか, 9, 686-689.

② 診療報酬体系の抜本改革と看護料—8月に出された厚生省案について, 10, 766-770.

③ 診療報酬のしくみと機能, 11, 847-851.

④ 情報提供に関する診療報酬, 12, 930-933.

【老人の在宅ケアにおける看護技術研究】

数間恵子・天野志保他(東京医科歯科大学)：

① 在宅療養支援における病院看護の役割に関する研究—外来における療養相談・指導ガイドライン(試案)作成, 8, 612-619.

② 在宅療養支援における病院看護の役割に関する研究—外来看護における「在宅療養指導料」活用に関する実態と課題, 9, 690-698.

③ 訪問看護活動の質の向上に関する研究—訪問看護活動と医師の指示について, 10, 772-778.

- ④訪問看護活動の質の向上に関する研究—褥瘡管理
プロトコール試案の作成, 11, 852-858.

【職場の労務管理 管理者に必要な視点】

畠中信夫(東洋大学法学部大学院)・宮崎和子(東洋大学大学院)：

- ①労働基準法・労働安全衛生法の成り立ちとその精神(1), 8, 620-626.
②労働基準法・労働安全衛生法の成り立ちとその精神(2), 9, 700-705.
③看護管理者が知っておくべき労働法制の知識, 10, 779-785.
④看護職のバーンアウト症候群は職業病か, 11, 859-865.
⑤労働安全衛生法の活用とバーンアウトの予防, 12, 934-940.

【看護アセスメントの生理学的検証】

工藤一彦(女子栄養大学)・西村ユミ(日本赤十字看護大学大学院)・齋藤やよい(千葉大学)・川島みどり(健和会臨床看護学研究所)：

- ①家族介護者の「負担」の評価—(その1)研究の概要, 1, 70-77.
②家族介護者の「負担」の評価—(その2)監視型測定法, 2, 142-151.
③家族介護者の「負担」の評価—(その3)非監視型測定法, 3, 224-233.
④食事摂取に伴う循環動態の評価—(その1)研究の概要, 4, 302-309.
⑤食事摂取に伴う循環動態の評価—(その2)考察と臨床への応用, 5, 382-389.
⑥糖尿病性自律神経障害患者の心拍変動に関する研究—(その1)自律神経の基礎知識, 6, 462-471.
⑦糖尿病性自律神経障害患者の心拍変動に関する研究—(その2)研究例の紹介, 7, 544-550.
⑧糖尿病性自律神経障害患者の心拍変動に関する研

究—(その3)心拍変動および皮膚・発汗機能の評価法, 8, 628-634.

- ⑨その他のベッドサイドモニタリング, 9, 706-711.
⑩生理機能検査法を用いた研究—1996年度の生理機能検査法を用いた研究の傾向, 10, 788-792.
⑪臨床生理機能評価法を用いた文献および研究の妥当性について, 11, 866-872.
⑫(座談会)連載を終えて—「看護の生理学」の無限の可能性, 12, 942-948.

【往復書簡】

杉野元子(看護組織開発研究所)・荒川義子(関西学院大学)：

- ①往復書簡, 6, 472.
②「ナースステカード」で看護婦さんにありがとう, 7, 552.
③コミュニティを考えました, 8, 619.
④日本の少年法に思う, 9, 699.
⑤人間は「未見の我」をもっている, 10, 785.
⑥米国での入院・手術体験レポート(前編), 11, 873.

【懸賞論文 私たちの安全・安楽の工夫】

審査結果発表, 10, 718.

西元勝子(滋賀医科大学)・川島みどり(健和会臨床看護学研究所)：審査委員講評, 11, 831-832.

吉田実千子・藤巻一美(富山県厚生連高岡病院)：(優秀)吸引のできる「口腔ケア歯ブラシ」の考案, 11, 833-835.

谷端千代美(兵庫県立塚口病院)：(佳作)小児の点滴固定法の改良—ソフトガーゼを使用した固定法, 11, 836-841.

永峯たつ・小野美紀子・佐々香代子(米沢市立病院)：(アイデア賞)排泄ケアバッグ, 11, 842-843.

皆川文子・若月裕子(米沢市立病院)：(努力賞)こんなのがほしかった訪問バッグ, 11, 844-845.